

森のひろば

近畿中国森林管理局

大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp>



世界文化遺産の背景林として重要な位置にある京都東山風景林

「美しい森林づくり」に向けて

近畿中国森林管理局では、平成20年度の重点取組として、地球温暖化防止をはじめとする森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、間伐等の森林整備を重点的に実施するなど、「美しい森林づくり」に向けた取組を積極的に展開します。

【関連記事は、2～4頁】

INDEX

- 02 「美しい森林づくり」に向けて
～平成20年度
近畿中国森林管理局重点取組～
－企画調整室－
- 05 歴史と景勝の山「船上山国有林」
－鳥取森林管理署－
- 06 各署等の取組・行事の紹介
- 08 保護林の的確な保全・管理に向けて
～保護林モニタリング
評価委員会を開催～
－計画課－



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を使用しています。

「美しい森林づくり」

～平成20年度 近畿中国森林管理局重点取組～



間伐実施箇所（兵庫県 阿舎利国有林）

5～10年ほど経過すると樹木も大きく成長し、下層植生が豊かになり健全な森林に生まれ変わります。

に向けて

1 地球温暖化防止のための森林吸収源対策等の推進

本年は、京都議定書の約束期間の初年度です。近畿中国森林管理局は、温室効果ガス削減の目標達成に向けた森林の整備のため、間伐を積極的に推進します。

○間伐等の重点的な推進

地球温暖化防止の森林吸収目標である1300万炭素トンの確実な達成に向けて、森林吸収源の対象森林となるよう間伐等を強化していくこととし、積極的に森林整備を推進します。本年度は、約6900ha（ガンリン約1470万リットル相当のCO2の削減としてカウント）の間伐を実施します。



樹種や林齢によって異なりますが、例えば適切に手入れされている80年生のスギ人工林は1ha当たり約170トン、ブナを主体とする天然林は1ha当たり約100トンの炭素を貯蔵していると推定されます。



高性能林業機械と路網を組み合わせた生産システム



間伐直後の林内の状況

○森林整備の効率化や木材の利用拡大

施業の共同化の促進、低コスト路網生産システムの導入・普及、システム販売を通じた木材の安定供給の拡大を推進します。

○スギ花粉の少ない森林への誘導を推進

京阪神圏等への花粉の飛散に強く影響を与えると推定されるスギ林を中心として、花粉の少ない森林への誘導を推進します。



箕面体験学習の森



法人の森林を活用した企業による森林整備



ボランティアと連携した森林教室

2 国民参加の森林づくり・人づくりの促進

森林づくりに関心を寄せる多くの市民や企業などが気軽に活動に参加できるよう多様な取組を推進するとともに、未来を担う子ども達が、森林・林業に関する理解を深め、自らの生きる力を育むことにもつながる森林環境教育の取組を進めます。

○森林ボランティア活動の支援

森林ボランティアの活動フィールドとなる「ふれあいの森林」などの整備を進めるとともに、森林ボランティアリーダー養成スクールのフォローアップ、森林・林業の普及に関するネットワーク会議の開催等により、森づくりに関わるNPO等の活動を支援します。

○「法人の森林」を活用した企業のCSR活動の支援

「法人の森林」の設定や企業とNPOとの協働による森林づくりなど、国有林のフィールド提供を通じ、企業の森林づくりへの参加を積極的に支援します。

○「箕面体験学習の森」の整備

広葉樹の育成や菊炭づくり体験等を通じ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上を目指す「箕面体験学習の森」を整備します。

○「森林環境教育プログラム」の普及

昨年作成した森林環境教育プログラムを活用し、教育機関等多様な主体と連携しつつ森林環境教育を推進します。

3 木の文化の再生・創造

京都・奈良等の世界文化遺産に隣接する国有林において、景観に配慮した森林づくりを進めるほか、社寺等の歴史的木造建築物の修復用資材を供給することにより、木の文化の再生・創造に努めます。

○古都を彩る森林景観づくり〜京都伝統文化の森推進協議会〜

世界文化遺産の背景林として重要な位置にある京都東山風景林について、一般市民や民間企業等の参画による古都京都を彩る森林景観づくりを推進します。

○歴史を未来へつなぐ森林づくり

歴史的木造建築物の修復用資材の供給に取り組みとともに、これらの建築物と一体となった森林景観の保全等を推進します。

4 野生鳥獣と自然が共生する森林づくり

野生鳥獣の保護管理と森林等への被害対策を一体的かつ効率的に進めます。また、地域の豊かな自然の恵みである野生鳥獣を含む森林生態系の保全と利用を図っていくための取組を推進します。

○野生鳥獣による被害森林の保護・再生事業の推進

ニホンジカの増加などにより、森林の衰退が進行している大台ヶ原地域の杉・大杉谷国有林において、関係者の連携により、森林の再生及び保全のためのモデル事業を実施します。また、カワウによる被害が拡大している琵琶湖岸の伊崎国有林の被害森林の再生を推進します。



東山風景林におけるボランティアによる森林景観づくりのための除伐作業



大台ヶ原地域の森林衰退状況

○グリーンサポートスタッフによる巡視等の実施

入込者が増加・集中する世界遺産周辺や百名山等の植生荒廃等を防止するため、グリーンサポートスタッフによる巡視や入込者への普及・啓発活動を実施します。

○天然力の活用等による針広混交林化の推進

自然的・地理的条件等を考慮しつつ、人工林を針広混交林へ誘導するため、人工林内の広葉樹の天然生稚樹の発生・生育メカニズムの調査・解析に取り組みます。

5 安全・安心な国土管理を推進する
治山対策の実施

国有林野の国土保全、国土防災に果たす役割を高度に発揮させるため、集中豪雨等による自然災害箇所の復旧対策を推進します。また、民有林行政等との緊密な連携、既存の治山施設の有効活用などにより効果的・効率的な治山対策を実施します。

○自然災害の早期復旧

自然災害によって、山崩れなどの荒廃が発生した山地について、地元自治体等との調整を行いながら、早期復旧に努めます。

○効果的・効率的な整備の推進

国有林・民有林が連携して治山対策を実施する「特定流域総合治山事業」を一層推進します。

また、既存施設の治山施設を有効活用した効率的な整備を行います。

○間伐材等木材利用の推進

事業の実施に当たっては、間伐材等の木材利用、PRを積極的に進めます。



荒廃山地を森林へ復旧



コンクリート型枠に間伐材丸太を使用

6 「美しい森林づくり推進国民運動」
の積極的な普及・PR

地域や市民団体との共催による各種イベント等の開催を通じた普及・PRに率先して取り組み、その推進を図ります。

○実施予定のイベント等

- ・水都おおさか森林の市
- ・古都をおおさか森林の市
- ・古都を彩る森林景観づくり
- （京都東山プロジェクト）
- ・古都のマツ緑の復活プロジェクト
- ・グループ対抗里山デジカメ選手権
- ・森と木の絵画コンクール
- ・森林ふれあい推進事業
- ・森林管理局庁舎「森林のギャラリー」
- ・森林管理署等で開催する植樹祭・育樹祭、自然観察会、清掃活動等



平成19年度「水都おおさか森林の市」の様子



平成19年度 森と木の絵画コンクール入選作品



平成19年度 植樹祭の様子（広島県 神石高原町）



大台ヶ原・大杉谷登山エコツアー

歴史と景勝の山 「せんじょうざん」 船上山国有林

鳥取森林管理署 ⑳

東大山山地の主要部を構成している船上山国有林は、鳥取県中部、琴浦町に位置し、大山隠岐国立公園に指定されています。標高は615mで、頂上は広く平たんな溶岩台地ですが、東、西、北の三方が屏風岩と呼ばれる100m以上の連続した断崖絶壁となっています。この屏風岩の南端には、雄滝と雌滝の二つの滝からなる千丈滝があり、頂上の大地から勢いよく流れ落ちる様はまさに壮観です。

船上山は、史跡・名勝等の自然美に恵まれ、ハイキング・登山に最適な山で、頂上までは徒歩で約40分、船上山から甲ヶ山(1338m)などを経由して大山山系に登ることもできます。また、麓には船上山ダム、県立船上山少年自然の家、さくらの里などの施設があり、森林を利用したレクリエーション・保健休養の場として多くの人々に利用されています。

「船上山から始まった健武の中興」

船上山は大山、三徳山とともに伯耆山嶺と呼ばれる修験道の霊場で、平安時代の初期から山岳宗教が栄えていました。この船上山が歴史の中で大きく注目を集めた

のは、「太平記」にも記されている元弘3(1333)年2月28日の船上山合戦です。鎌倉時代に流刑地の隠岐島を脱出した後醍醐天皇は、伯耆国(現在の鳥取県西部)の豪商 名和長年に迎えられて船上山(現在の琴浦町)に拠りつきます。

合戦を決意した長年は近くの要害山「船上山」に天皇を向かえ、名和軍150騎を従えて立てこもりました。幕府軍約2千騎が船上山を囲みますが、長年は白布五百反の旗に近国武士の紋を描いて立て大軍がいるように見せかけました。船上山の上から降り注ぐ矢と、折からの暴風雨に幕府軍がひるんだ隙に、長年は射手を率いて猛攻撃をしかけ、幕府軍1千騎余りは堪らず進退を失って谷底に落ちてゆきました。

幕府軍との合戦は3日間にわたる激戦となりましたが、船上山に立てこもった長年方が勝利しました。

後醍醐天皇による建武の中興という歴史が存在したのも、天然の要塞といわれた船上山の特異な地形があったればこそといえるかもしれません。



船上山の屏風岩と雄滝・雌滝からなる千丈滝



上：麓の船上山ダム
左：大山山系につながる遊歩道



◆ 船上山へのアクセス

公共交通機関を利用の場合、JR山陰本線赤碓駅から日ノ丸バス船上山行きで30分、少年自然の家で下車し、徒歩5分。車の場合、米子自動車道米子ICから県道24号・30号を経由し、県道34号を大山方面へ27km。

〒680-0001

鳥取市東町二丁目三五

TEL 0853-2606115

FAX 0857-315411

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/tottori/>

各署等の取組・行事の紹介

若い発想に期待

新規採用者12名が入庁

【局】 4月10日、近畿中国森林管理局大会議室において平成20年度の新規採用者12名の入庁式を行いました。新規採用者は、4月1日から管内の各署等に配属されていますが、新規採用者研修に臨むために局に集まりました。入庁式では朝比奈局長から「



新たな決意を胸に

朝比奈局長ほか局幹部を囲んでの記念撮影

地球温暖化や水資源の危機など地球的な環境問題が強く叫ばれている中で、森林を造り育てる仕事というのは、このいずれにも貢献できる人類全体に寄与する大変高な仕事ではないかと思っている。限られた予算の中で、森林からもたらされる恩恵をいかにして国民の皆さんに還元していくかというところに最大限の工夫する余地がある。若い発想で新たに工夫し、知恵を出しながら現場で地域の森林づくりのために頑張ってほしい」と、訓示がされました。局長訓示の後、新規採用者を代表して三重森林管理署の川村幸義さんが「これまで先輩方が営々と育ててこられた広大な森林を、これから育てていけることにロマンを感じながら、必要な知識と技術が早く身につけられるよう一生懸命頑張っていきたい」と宣誓しました。新規採用者12名は研修終了後、それぞれの職場で活躍することになります。



ボランティアによる古都のマツ復活に向けたイベントを開催

【京都大阪森林管理事務所】 3月12日、銀閣寺山国有林において、「高島屋」社員の皆さんのボランティアによる古都のマツ復活に向けたイベントを開催しました。高島屋では、「一粒のぶどう基金」を設置して、社員による環境保全を含む社会貢献活動への支援を行っており、今回のイベントは、同基金からの支援を受けて実施されました。当日は、高島屋京都店・洛西店から28

名の参加があり、当所からは、福田所長をはじめ5名の職員が指導に当たりました。

開会式では、福田所長より、歓迎の辞を述べた上で、かつて、京都の山林の多くはマツ林であったと言われているが、「松枯れ」の広がりに伴い、今では松林はほとんど見られなくなっている、銀閣寺山国有林には比較的多くアカマツが残っていることから、今後、ここを拠点として、京都の景観を形成するマツの復活に取り組んでいきたい旨開会の挨拶を述べました。また、高島屋労働組合京都支部の岡執行委員長より、高島屋としても社会貢献活動に積極的に取り組んでいきたい旨の挨拶がありました。

開会式終了後、各自が苗木と道具を担い



熊手を持ち地掻き作業を行う参加者

で、大文字山に続く登山道を15分程登り、千人塚付近の植栽箇所に向かいました。植栽箇所では、林造林主幹が植栽方法について説明を行った後、参加者全員に、「マツノザイセンチュウ抵抗性マツ」の苗木計140本を植栽して頂きました。現地は、傾斜が急で、地面に多くの根が錯綜していることから、植え穴を掘るのは大変だったようです。

植栽作業終了後、アカマツの天然更新を促すため、地表にある落葉と表土をはぎ取る「地掻き」の作業を行いました。作業箇所は、3年ほど前に除伐・間伐を行った場所ので、参加者全員に、竹製の熊手を使って、落葉・表土を掻き取って頂きました。また、あわせて、数内上席調整官によるアカマツ枯死木の伐倒デモンストラクションも行いました。今回「地掻き」を行った箇所では、「地掻き」の作業効果を検証するため、今後、定期的に調査を行っていく方針です。



都島中学校との協働による緑の募金活動

【局】 4月18日、近畿中国森林管理局では、造幣局のサクラの通り抜けで賑わうJR桜ノ宮駅前及び局庁舎前において、「緑の募金キャンペーン」の一環として街頭募金活動を実施しました。当日は、大阪市立都島中学校でボランティアクラブなどに所属する生徒11名の参加を得て、緑の募金への呼びかけを行いました。生憎の雨模様で昨年

に比べ若干人通りは少ない状況でしたが、中学生の元気な呼びかけに道行く市民も笑顔で募金に応じていただき、2時間ほどで3万8千330円の募金が集まりました。なお、集まった募金は、(社)国土緑化推進機構を通じて、地球温暖化防止のための森林整備や森林ボランティアの育成などに役立てられます。



中学生が元気な声で募金を呼びかけ

タケノコ掘って熊野古道を整備

【和歌山森林管理署】 4月19日、世界文化遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」のひとつである熊野古道「高野坂」のある御手洗国有林内で、タケノコ掘りと孟

宗竹の伐採作業を行いました。作業は、およそ0.5ヘクタールにわたって侵入してきた孟宗竹の本数調整を目的とするもので、今年で4回目となります。

今回は、一般から募ったボランティア24名と森林管理署OB5名、和歌山森林管理署の職員13名の計42名が参加しました。辻署長から、「熊野古道の景観を守るための作業に参加いただきありがとうございます。この森林は、人の手が必要な森です。皆さんの力で森を良くしましょう」と挨拶のあと、同署職員から伐採の仕方や安全作業等についての説明を受け、約2時間をかけて古道沿いの竹林の整備を行いました。

参加者は、大きなタケノコを見つけたら、「大きい」と歓声を上げながら、一生懸命タケノコを掘り、1時間ほどで約150本を収穫し、「初めてタケノコを掘りました」「古道が明るくなり歩きやすくなりました」「とてもいい汗を流させていただき、有り難うございました。来年も是非参加させてください」などと声を弾ませていました。

また、この様子は地元紙をはじめ、地元ケーブルテレビで取り上げられ、世界遺産の保全と国有林の関わりについて大きなPRとなりました。



伐採に汗を流す参加者



地元紙も取材

平成 20 年度 森林ふれあい推進事業

**大台ヶ原・大杉谷国有林エコツアー
参加者募集!**

～大杉谷の歴史や

貴重な自然に触れながらの国有林内登山～

- 日 程 平成 20 年 5 月 31 日 (土) ～ 6 月 1 日 (日)
- 行 程 1 日目: 大台ヶ原・日出ヶ岳 (1,695m) から、大杉谷国有林内原生林の自然豊かな尾根を歩きます。大杉渓谷の最源流部の谷、母なるブナの原生林などを巡ります。(約 5km)
- 2 日目: 大台ヶ原の美しい自然林と歴史を感じながらの山歩き。(約 6km)
- 集 合 近鉄橿原神宮前駅中央口 午前 9 時
- 解 散 近鉄橿原神宮前駅中央口 午後 5 時頃
- 募集人員 先着 30 名様 (定員になり次第締切)
- 参加費 大人 24,000 円(1泊4食付、宿泊は大台山の家)
- 参加申込 電話、ハガキ、FAX で 5 月 22 日まで (必着) にお申し込み下さい。(お名前、年齢、ご住所、電話番号、参加人数をご記入下さい。)

◆お問い合わせ・お申し込み

NPO 法人 大杉谷自然学校
〒 519-2633 三重県多気郡大台町久豆 199
TEL 0598-78-8888 FAX 0598-78-8889



保護林の的確な保全・管理に向けて



ニホンジカによる食害が深刻な「大杉谷森林生態系保護地域」(三重県)において、植生回復策を検討



イヌブナの貴重な植生が確認された「音水林木遺伝資源保存林」(兵庫県)において、保護区域の拡充を検討



シカ防護柵の設置を実施する「大塔山モミ・ツガ・ブナ植物群落保護林」(和歌山県)



ササ等の被圧により稚樹の発生が見られないなど、ブナ林としての植生が衰退傾向にある「氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林」(鳥取県)

近畿中国森林管理局では、原始的な自然生態系からなる自然環境の維持や野生動物の保護、遺伝資源の保存などを目的に、74箇所、約1万900haの「保護林」を設定し、適切な保全管理に努めています。

平成19年度から、設定後の保護林の状況を的確に把握し、現況に応じた保全管理を推進するため、「保護林モニタリング調査」を実施しました。

この調査結果について、平成20年3月4日に学識経験者からなる「保護林モニタリング評価委員会」を開催し、今後の保護林のあり方について検討を行いました。

今回調査した22箇所の保護林の大半については、保護対象樹種・植物群落が健全に保存・生育し、保護林の設定目的を果たしていることが確認できましたが、次のような状況変化が確認されました。

- ニホンジカによる食害が確認された保護林が13箇所と、広い地域において、ニホンジカによる植生の衰退がみられる。
- ブナを対象とする保護林において、上層木のブナが枯死するとともに、ササ等の被圧により稚樹の発生が見られないなど、ブナ林としての植生が衰退傾向にある。
- 保護林の周辺林分について、保護林と同様な貴重な植生を有する林分が再確認された。

各委員の方からは、調査プロットの設定箇所の考え方、基礎調査の充実、ニホンジカによる食害調査について調査項目の追加などの意見が出されました。

今後、植生回復の検討を行うためのモデル事業の実施、保護林の拡充等を検討し、保護林の的確な管理に努めていくこととしています。